

第2部：最新のソフトウェア事例1

DX時代の3DEXPERIENCEプラットフォーム ENOVIAを活用した業務改善

ダッソー・システムズ 山本 晃司*

*やまもと こうじ：ENOVIA 営業部 部長

DX時代に求められるもの

今まで、企業の取組みは多くの場合、各部門内、もしくは各プロセス内で課題解決を済ませることが一般的だったが、製造DXを目指すには、部門間・プロセス間を横断する情報の連携に加えて、人と人のコミュニケーションの連携、プロセスの連携が必要となっている。部門間・プロセス間の情報を連携させようとすると、データの移動やコピーが必要となるが、これによって、マスターデータがどこに行ってしまったかわからなくなり、データを探すのに非常に多くの時間を費やす原因になってしまう。

そこで、今日求められているのは、このような部分最適から、部門間・プロセス間のデータ、コミュニケーション、プロセスの連携を実現する全体最適の取組みである。

3DEXPERIENCE プラットフォームが提供するバリューとは

10年ほど前は、設計データとBOM(Bill of Materials、部品表)を関連付けるPLM(Product Lifecycle Management、製品ライフサイクル管理)がフォーカスされていたが、今日では、製造DXや強靱な仕組みを確立していくには、PLM領域にとどまらず、より連携性の高いソリューションが求められ

ている。それが、当社が提供する、PLMを卓越した3DEXPERIENCEプラットフォームである(図1)。

組織やプロセスの間に存在する各種の「壁」を取り除き、欲しい情報がいつでも、どこでも、簡単にアクセス可能な仕組みが、製造DXを実現するキーファクターとなるだろう。その点において、3DEXPERIENCEプラットフォームが提供するバリューについて以下に説明する。

1. One DB/One Platform

PLMと称しているソリューションは多くのベンダーから提供されているが、その中でも3DEXPERIENCEプラットフォームは、製品開発から製造までのすべての情報を1つのデータベース、かつ1つのプラットフォームで管理することが可能である。

これによって、どのデータ、プロセス、部門からでも任意の起点から情報を確認・活用できるので、煩わしい連携や検索などに多くの工数を割く必要がなくなる。製品に関するすべてのデータがRFLP(Requirement、Function、Logical、Physicalの頭文字を取ったもの)モデルおよび製造プロセスやリソースとOne DB(単一のデータベース)内で連携が取れる仕組みになっている。

それにより、メカ設計データ、電気設計データ、組込みソフトウェアのデータも同じ製品構成ツリー内に同じ粒度で管理でき、活用・確認が取れるようになる。また、部門やプロセスをまたいだデ